

中学年分科会提案

研究主題

思考力，判断力，表現力の育成
～国語科「読むこと」を通して～

○目指す児童像

想像を広げながら読み取ったことを伝え合う中で、自分の思いや考えを広げることができる児童

○中学年の目指す児童像

一つ一つの言葉に注目して読み、根拠となる文章から自分の考えをもち、伝え合うことの楽しさを味わえる児童

○目指す児童像の捉え方

- ・学習課題の解決につながる言葉を見付けることができる。
- ・見付けた言葉や文章を基に自分の考えを書くことができる。
- ・考えを伝え合うことで、自分の考えをまとめることができる。

○分科会としての取組

1 問題解決的な学習過程の工夫

- (1) **課題把握** 目的意識をもって読み、楽しむことができるようにする工夫。
- (2) **見通し** 物語の「全体構成図」を掲示することで学習の見通しをもつことができるようにする工夫。
- (3) **自力解決** 自分の考えに自信をもって表現することができるようにする工夫。
- (4) **共有** 児童一人一人の意見を共有したり比較したりできるようにする工夫。
- (5) **振り返り** 児童が学習の深まりを実感できるようにする工夫。

2 叙述をもとに想像を広げて読み、自分の考えをまとめるための手だて

- (1) 登場人物の気持ちの変化をつかむために「全体構成図」を活用する。
- (2) 登場人物の性格を捉えるために、登場人物の会話や行動に着目させる。
- (3) 情景を正確に想像するために、国語辞典や図鑑、画像を活用する。

研究授業の視点

- ・話型が書かれたワークシートを提示することで自分の考えを書くのに有効であったか。
- ・少人数での話し合いを行うことで、考えたことの共通点・相違点を見付けるのに有効であったか。
- ・ワークシートで視点を示すことで、自分の気持ちの変容や広がりを実感できたか。

研究主題

思考力、判断力、表現力の育成
～ 国語科「読むこと」を通して～

- 1 単元名 場面のうつり変わりと結び付け，登場人物の変化を読もう
教材名「ごんぎつね」（教育出版）
- 2 単元の目標と評価規準
- (1) 単元の目標
- 様子や行動，気持ちや性格を表す語句の量を増し，言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し，語彙を豊かにできるようにする。 [知識・技能]
 - ◎ 登場人物の気持ちの変化や性格，情景について，場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。 [思考力・判断力・表現力]
 - 文章を読んで理解したことに基づいて，感想や考えを持っている。 [思考力・判断力・表現力]
 - ◎ 対話を通して，一人ひとりの感じ方や考え方の違いがあることに気付けるようにする。 [思考力・判断力・表現力]
 - 言葉がもつよさに気付くとともに，幅広く読書をし，国語を大切に，思いや考えを伝え合おうとするようにする。 [学びに向かう力・人間性]

(2) 単元の評価規準

知識・技能 (知)	思考・判断・表現 (思)	学びに向かう力・人間性等
(1) 登場人物の行動や気持ちなどについて叙述を基に捉えている。	(1) 中心人物の行動や言葉，情景描写などについて，場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。	(1) 言葉がもつよさに気付くとともに，幅広く読書をし，国語を大切に，思いや考えを伝え合おうとしている。
(2) 人物の様子や行動，気持ちや性格を表す語句の量を増し，語彙を豊かにしている。	(2) 文章を読んで感じたことや想像したことを共有し，一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くことができる。	

3 単元設定の理由

(1) 児童観 (児童の実態)

略

(2) 教材観

一人ぼっちの寂しさから，いたづらをしていた主人公のごんが，兵十の母親の死を自分のせいだと思い込んだことをきっかけに，兵十を慰め喜ばせようと償いを続け，思いを募らせていく話である。この教材は，一読しただけでは，ごんの気持ちの変容や兵十の思いを捉えることは難しいが，学習課題をもとに再読することで，ごんの気持ちの変容を，想像豊かに読めることが魅力である。

(3) 指導観

指導にあたっては，児童一人一人が自分の考えをもてるよう，人物の行動や思いを表す言葉や叙述に着目させ，そこから想像したことを具体的に表現できるよう，話型を提示しながら指導を行っている。

く。また、児童同士の意見交流の時間を通して、一つの叙述からでも多様な感じ方があることに気付
き、自分の考えが深まる良さを実感できるようにしたい。そして、『ごんぎつね』の物語をおすすめ
するために、本の帯作りを行い、今後の読書発表会にもつなげていくという目標をもたせ、主体的な
学習につなげていきたい。そのために、以下の手だてを考えた。

4 研究主題に迫るための手だて・分科会としての取り組み

(1) 目的意識をもって読み、楽しむことができるようにする工夫。

- ① 学習全体を通して、『ごんぎつね』の本の帯を作り、物語をおすすめし合う活動を行う。
- ② 初発の感想より児童から出た疑問等を学習課題の柱にし、読み深めていく。

(2) 自分の考えに自信をもって表現することができるようにする工夫。

ワークシートを活用し、自分の考えたことを分かりやすく伝えるための話型を提示する。

(3) 児童一人一人の意見を共有したり比較したりできるようにする工夫。

少人数での話し合いを通して、自分の考えと似ているところ・違うところを視点に、友達の考えを見付
けられるようにする。

(4) 児童が学習の深まりを実感できるようにする工夫。

振り返りの視点として、「自分の考えが変わったこと・強くなったこと・広がったこと」を示し、自分
の考えの広がりや深まりを具体的に書けるようにする。

5 単元指導計画【全10時間 本時 8/10】

	主な学習活動	☆主題に迫るための手立て ◆評価規準（評価方法）
1	<p>教師の範読を聞き、初発の感想を交流する。</p> <p>(1) 「ごんぎつね」を読み、物語の中で心に残ったことや登場人物の行動で不思議に思ったことを交流する。</p> <p>(2) 学習の目的を知り、見通しをもつ。</p> <p>【学習の目的】 物語の本の帯を作り、『ごんぎつね』の物語のおすすめしよう。</p>	<p>☆学習の目的を意識し、学習への意欲を高める。(1) ①</p>
2	<p>新出漢字や語句について知る。</p> <p>(1) 『ごんぎつね ものしり図鑑』から、ごんの暮らしていた時代の様子を知る。</p> <p>(2) 新出漢字や語句について調べる。</p>	<p>◆ [知・技] (2) ・意味調べや『ごんのものしり図鑑』から、語彙の意味や様子を理解している。(ノート)</p>
3	<p>学習の計画を立てる。</p> <p>(1) 物語の大まかな流れを捉える。</p> <p>(2) 第1時の活動で交流した、児童の疑問や気付き場面ごとに整理し、学習課題を決める。</p>	<p>☆児童からでた疑問を柱に、学習課題を設定するようにする。(1) ②</p>
4	<p>中心人物の心情の変容や兵十への思いを、叙述を基に想像したことを交流し、自分の考えを深める。</p> <p>ごんは、どうしていたずらばかりするのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ひとりぼっち」「小ぎつね」「ちょいといたずらがしたくなったのです」など、着目する言葉や叙述を基に、ごんの思いを想像し、ワークシートに書く。 ・全体で共有する。 ・どの文に着目して、どのように考えたのかを伝える方法を確かにする。 	<p>☆自分の意見・理由の順番で整理しながら書けるようにする。(2)</p> <p>☆友達と自分の意見を比較し、共通点や相違点を意識しながら、交流できるようにする。(3)</p>

5	<p>ごんは、どうしていたずら心から反省の気持ちに変わったの だろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「全体構成図」で、前時のごんの思いを共有する。 ・学習課題につながる叙述を見つけ、その文や言葉から想像したことを本文に吹き出しで書き込む。 ・自分の考えをワークシートに書く。 ・3人組で交流し、自分の考えと比較しながら話し合う。 ・自分の広がった・深まった考えを振り返る。 	<p>☆友達の良さ、深まった自分の考えを視点に振り返ることができるようにする。(4)</p> <p>◆〔思・判・表〕(1) ごんの行動や言葉、情景描写などに着目し、ごんの思いを想像している。(話し合いの様子・ワークシート)</p>
6	<p>ごんは、どんな思いでつぐないを続けたのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「全体構成図」で、今までのごんの思いを共有する。 ・学習課題につながる叙述を探し、そこから想像したことを本文に吹き出しで書き込む。 ・自分の考えをワークシートに書く。 ・3人組で交流し、自分の考えと比較しながら話し合う。 ・自分の広がった・深まった考えを振り返る。 	<p>◆〔思・判・表〕(2) 交流を通して、友達の考えの良さに気付いたり、自分の考えを確かにしたりしている。(振り返り)</p>
7	<p>ごんは兵十についてき、どのような思いになったのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「全体構成図」で、今までのごんの思いを共有する。 ・学習課題につながる叙述を探し、そこから想像したことを本文に書き込む。 ・自分の考えをワークシートに書く。 ・3人組で交流し、自分の考えと比較しながら話し合う。 ・自分の広がった・深まった考えを振り返る。 	
8 (本時)	<p>ごんの思いは、兵十に伝わったのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「全体構成図」で、今までのごんの思いを共有する。 ・本文から、兵十とごんの様子や思いを分けてラインを引く。 ・二人の様子から、ごんの思いは伝わったのか、ワークシートに書く。 ・3人組で交流し、自分の考えと比較しながら話し合う。 ・自分の広がった・深まった考えを振り返る。 	
9	<p>物語の始めと終わりの自分の感想を比較する。</p>	<p>◆〔人間性〕(1) 言葉を大切にして物語を読み、本の帯作りを通して、自分の思いや考えを伝え合おうとしている。(作成の様子)(紹介の様子)</p>
10.	<p>『ごんぎつね』をおすすめするために、本の帯を作り、紹介し合う。</p>	

6 本時について (8 / 10 時間)

(1) 本時の目標

自分の考えを伝え合う活動を通して、友達の考えの良さに気付いたり、自分の考えを確かにした
りできるようにする。 [思・判・表] (2)

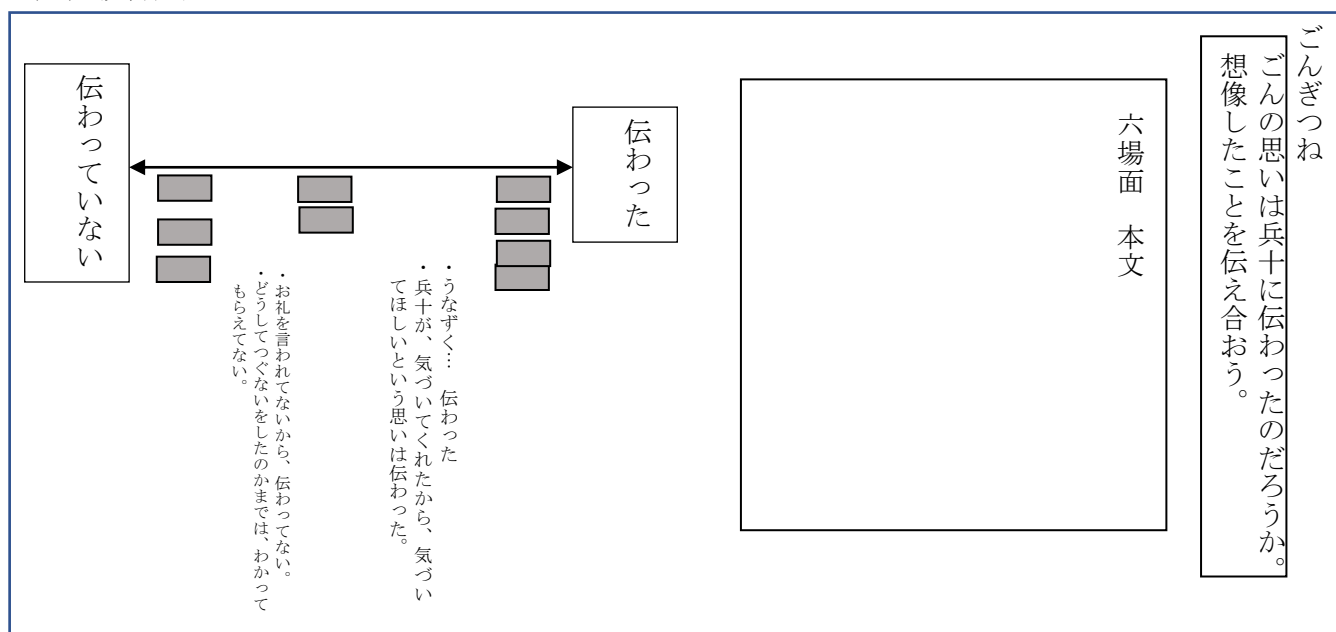
(2) 本時の展開

	主な学習活動	主な発問と指示 (○) 予想される児童の反応 (・)	指導上の留意点 (◇) 評価基準 (◆) (評価方法)
導入	<p>1 前時の振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ごんは、自分の償いに気付いてもらえなかった思いと、兵十に気付いてもらいたい思いであることを確認する。 	<p>○ごんは、兵十への思いがどのように変わっていったのだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・始めよりも、兵十に気付いてもらいたい気持ちが強くなっていった。 ・兵十からお礼を言われたい気持ちもある。(「引き合わない」という文より) 	<p>◇ごんの思いの変容がわかる「全体構想図」を使い、心の変容が視覚的に分かるようにする。</p>
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> ごんの思いは兵十に伝わったのだろうか </div>		
展開	<p>2 ごんの思いについて叙述から想像し、自分の考えをもつ。</p> <p>(1) 6場面を読み、兵十の行動や思いが分かる部分、ごんの様子が分かる部分にサイドラインを引く。</p> <p>(2) 兵十の様子や、ごんがうなづく様子から、ごんの思いは伝わったのかを想像し、ワークシートに自分の考えを書く。</p> <p>(3) 名前の磁石を黒板に貼る。</p> <p>3 交流 (共有)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3人組になり、話し合いを行う。 ・自分の考えと比べながら聞く。 ・本文の根拠をもとに、想像したことを話す。 	<p>○撃たれた後のごんの様子や兵十の様子からごんの思いは兵十に伝わったのか考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伝わったと思う 償いをしたことに気付いてくれたから。うれしくてうなづくしていると思う。兵十が後悔しているから、今までのいたずらを許してくれたと思うから伝わった。 ・伝わっていないと思う お礼を言われたい思いもあったと思うので、伝わっていないと思う。なぜ、くりやまつたけを持っていったのかまでは伝わっていないと思う。 <p>○自分と同じ考えの人と、どんな理由や根拠が見つかったのか、情報交換しよう。</p>	<p>◇本文のどこから考えたのかを伝えることを共有する。</p> <p>◇自分の考えと比べながら聞き合うことを意識できるように助言する。</p>
まとめ	<p>4 振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達の良さや、深まった自分の考えについて振り返りに書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・初めは、「伝わった」と思っていたけど、○さんの、5場面の「お礼を言われたい気持ちもあったから、思いまでは伝わっていない」という意見に、納得しました。 ・私は「伝わった」と思いません。他の人の意見からも、「うなづく」というのは、納得して思いを伝えたことになると感じました。 	<p>◆ [思・判・表] (2) 交流を通して、友達の考えの良さに気付いたり、自分の考えを確かにしたりにしている。(振り返り)</p>

(3) 評価

<p>本時の評価規準</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ごんのうなずいた様子や、他の場面の叙述からも想像を広げ自分の考えをもっている。 ・友達との話し合いに参加し、相手の考えと比較しながら交流している。
<p>「十分に満足できる」と判断される児童の状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ごんがうなずいた様子や、今までの学習で分かったごんの思いを根拠にして、すすんで自分の思いを伝えている。 ・自分と異なる意見にも耳を傾け、自分の考えに追加したり、変えたり、確かにしたりしている。
<p>「努力を要する」と判断される児童への手だて</p>	<p>【自分の考えをもてない児童への手だて】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ごんがどんな思いでうなずいたのかを、選択できるカードを用意し、自分の考えに近いものを選ぶように個別に声を掛ける。 ・どうしてそう考えたのか、話型シートを使って穴埋めをしながら自分の意見をもてるよう、個別に助言をする。

(4) 板書計画



研究協議会記録

(1) 研究協議

① 成果

- ・ワークシートを活用したことで、自分の考えをもち、根拠をもって書けるようになっていた。また、自分の考えを伝えたいとなった児童もいた。
- ・課題が焦点化、視覚化されていてよかった。
- ・ワークシートの話型提示がよかった。
- ・トリオトークで友達のことを認める姿がたくさんあったため、自分の考えを発表することへの自信を高めることができた。

② 課題

- ・伝わった、伝わっていないのグラフに名前を貼る活動は、集団心理に左右され、自分の意見を伝えるにくくしている可能性がある。
- ・他の場面からもごんが伝えたのかどうかを考えられるとよかった。
- ・課題設定は「ごんが伝えたのか」でよかったのか。また、兵十に伝えたごんがどんな思いだったのかという深まりが欲しかった。
- ・気持ちメーターの違いを比較させることで話し合いの必然性ができたのではなかろうか。
- ・意見交流が授業時間のウェイト多く占めていたため、読みの時間を確保したい（増やしたい）
- ・考えを全く書けない人へは、スモールステップで取り組めるようにする支援をしたり、個別でタブレットを使用して、ほかの児童の意見を見たり手本にしたりして考えられるようにするとよい。

(2) 全体講評

- ・『ごんぎつね』は70年以上前から読まれてきた。4年生として初めて出会う文学。教材としてハッピーエンドで終わらない。昔から行われてきた教師が用意したことを答えさせる授業だと考える力はない。教材研究するときは、教材のとびらを活用する。そして、作品に入る前に子供たちと共通確認をする。また、教材研究の際は、教材の扉から振り返りまでを見通して行う。
- ・単元の目標には、思考力・判断力・表現力（思考力・判断力・表現力 エ）だけでなく、作品を教えることになってしまわぬよう何を教え、身につけさせるのかを指導者が明確にもてるよう、もっと具体的に表記する。
- ・授業や課題設定について、「つぐない」などの重要なキーワードは教師やクラス全体で取り上げて考える。ごんの「どんな思い」兵十は「どんな気持ち」を問えばより深い学習になる。例、「つぐない」は神様でなく、ごんだと気付いてもらえた。ごんは、どんな思いになったのか。焦点化するのはどの叙述から何を想像するか（ワークシート、友達のことを提示、読みを絞る）まで、を考えておく。文学作品に必要なのは、想像力である。トリオトークの有効性。ワークシートは、ヒントにもなるが型が決まってしまうので、評価が「A」の児童には何も書いていないノートを選ばせるとよい。中心人物だけを追った心情曲線だけでなく、対人物を追った心情曲線も合わせるとより有効的になる。物語が誰目線で書かれているのかに注目する。例、6場面は兵十視点が多い→兵十のことが書かれている→「ごんが伝えたごんが伝えたのか」
- ・先生の資料から、知識は正確に指導し、教師が用意した正解を当てるのではなく、その知識を使って想像させる。どんな気持ちで書いたのか作者意識をもたせる。この教材を使って何の力を身に付けさせたいのが大切。